

# 学園広報

One life,  
Many answers

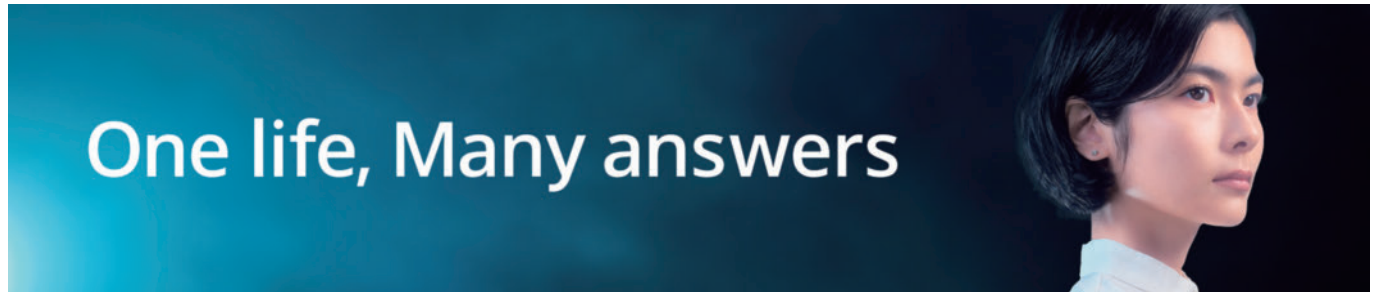


札幌学院大学  
SAPPORO GAKUEN UNIVERSITY

## 札幌学院大学学園広報

編集・発行 札幌学院大学 企画政策課  
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011) 386-8111  
<https://www.sgu.ac.jp>

2025年2月20日発行 | vol.138



### 産・学・官が連携した教育研究活動を通じ、 新さっぽろ（札幌副都心）の街づくりに参画

本学は2021年に「多様なこと・ひと・もの (Diversity)」との「協働 (Collaboration)」を図ることを目的とした都市型・開放型キャンパスを新さっぽろに開設しました。社会、地域、企業、住民団体等の課題に協働で取り組むことにより、課題解決という実践的学びと社会貢献の経験を同時に得るとともに、この活動を通じて札幌副都心の街づくりに積極的に参画しています。

#### 大和リースと連携した実践的 PBL（課題解決型授業） ～ BiVi 新さっぽろの魅力伝える PR 動画の制作 & 夏祭りキッチンカーの出店

地域経営の専門家である河西邦人学長が担当している授業（教養科目「地域貢献B」）では、講義を聞くだけでなく、得られた知識を駆使して、学生が地域課題の解決の糸口を探していく PBL の手法 (Project/Problem Based Learning) を取り入れています。全学部から 90 名を超える受講生が集まり、実践的な授業を通じて分析力、構想力、構想実現力を身につけていきます。

授業では前半に、地域づくりの概念、基本的な考え方と基礎理論を学び、ケーススタディとして YOSAKOI ソーラン祭りなどを例に専門的な学びを深めました。後半は、連携協定を締結している大和リース株式会社北海道支店の協力を得て、同社が運営する商業施設「BiVi 新さっぽろ」を舞台に、① 飲食テナントの PR 動画制作、② 2024 年 8 月 23 日～25 日の夏祭りイベントでのキッチンカーの出店を行いました。

動画プロモーションでは、動画の制作・編集作業のほか、お店への取材、動画コンセプトの説明、撮影日程の調整などを通じて動画制作の一連の工程を経験しました。キッチンカーでは各チームが魅力的なメニューの開発や最適な価格設定、調理工程の効率化などに取り組み、当日は多くのお客様にご利用いただくことができました。

地域づくりとビジネス支援の方法論を学んだ学生たちが、将来、行政や企業の地域開発の現場で活躍することを期待しています。



#### 大和ハウス工業株式会社と共同研究～産・学・官が連携して新さっぽろを住みよいまちへ

2024 年 11 月 1 日、大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：芳井敬一氏）と本学は、新さっぽろのにぎわいづくりと、それらの活動が地域に与える影響を分析・検証する共同研究契約を締結しました。再開発が加速する新さっぽろにおいて、社会関係資本 (Social Capital) の概念をもとに、いくつかの「社会実験」を行いながら、持続可能なにぎわいづくり活動における効果を共同で研究します。共同研究には札幌市もアドバイザーとして加わり、産・学・官が連携して、よりよいまちづくりを進めます。

共同研究での社会実験として、11 月 30 日に教養科目「地域貢献D」（担当：河西邦人学長）の受講生が運営する子ども食堂型フリースペース「チル ON！ベ～す」を本学新札幌キャンパスで開きました。研究テーマは、「子どもが成長するためのより良い環境とネットワーク創り」、「新さっぽろ地区の食品廃棄ロス問題の解決」、「地域社会が支える産業の仕組みづくり」の構想を実現することです。学生たちは、授業を通じて新さっぽろの地域情報を収集し、まちづくり構想や社会関係資本などについて学んだうえで、子ども食堂型フリースペースを企画。募集案内の作成や食材調達、子ども向けのアクティビティなどの準備を進めてきました。

当日は小学生と保護者の皆様（約 40 名）が参加し、フードロスに関する学習会のあとは、規格外野菜を使い学生たちが心を込めて作ったカレーライスと味噌汁を食べてフードロス削減についての理解を深めました。



## 北海道内初！日本遺産サポーター大学に登録

2024年10月7日、本学は文化庁が実施する「高等教育機関における日本遺産サポーター登録制度」により「日本遺産サポーター大学」に登録されました。これは日本遺産『鮭の聖地』の物語～根室海峡1万年の道程～に認定された根室市・標津町・別海町・羅臼町の1市3町における森邦恵教授（経済学科）らによる継続的な調査活動が評価された成果です。森教授が2018年に本学に着任した際、学生が現地で行う「産業調査演習」の調査地として選んだのが、道東・知床地方でした。自身が「サケ・マス」産業の研究をしていることが理由でしたが、2020年、地域住民の方に「継続して来てくれるようなら、日本遺産というキーワードと一緒にやってみないか」との提案を受け、経済学科の地域研究プロジェクトとして、そして2024年度からは他学科とも連携をしながら、対象地域を多角的に調査し、地域の魅力を紹介することに取り組んでいます。

学生を引率して現地調査することは多くの大学で行われていますが、「日本遺産」が対象であること、そして「継続的な取組」であることが認定基準として重要でした。札幌学院大学が北海道全域を対象として継続的に地域課題の解決に携わっていることを、これを機会に多くの皆様にご紹介いただけることを期待します。



▲標津サーモン科学館の視察で松浦武四郎の蝦夷地地図を見学



▲標津町パー川史跡自然公園の歴史民俗資料館で土器の見学

## 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定

本学の「データサイエンス・AI教育プログラム」が、2024年度より文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づくリテラシーレベルに認定されました。

リテラシーレベルは、大学等の全ての学生が身につけておくべき素養として位置づけられているものです。本プログラムの必修科目である、「コンピュータサイエンス概論」「データサイエンス概論」の2科目4単位を修得することで、プログラムの修了ならびにリテラシーレベルの能力を有していると認定されます。

学科学年を問わず、1年生から履修ができるようオンライン授業（Moodleを利用したオンデマンド授業）として開講し、希望する学生には修了証を発行しています。

今後も多くの学生が履修し、卒業までにプログラムを修了することを推奨します。



## 広報用動画（テレビCM）リニューアル

テレビCMなどで使用している広報用動画を4年ぶりにリニューアルしました。2024年8月よりテレビCM、WEB広告などで放送・掲出し、同時にこの動画にあわせたキービジュアルの更新も順次行っています。

今回のCMの主人公には、札幌出身のモデル門田怜さんを起用しています。門田さんは15歳からモデル活動をはじめ、テレビ番組の企画でパリコレに挑戦し、現在、ファッション誌やランウェイモデルなどで活躍中です。自分の可能性で夢をつかもうとする門田さんの意志の強さが本学のタグライン「One life, Many answers」に合うと考え、出演していただきました。なお、本学公式YouTubeチャンネルでは60秒 ver. もご覧いただけます。





## 高校生ビジネスプランコンテスト開催

2024年12月14日、高校生のビジネスアイデアを競う「第4回高校生ビジネスプランコンテスト」が新札幌キャンパスで開催されました。1次審査を通過した16チームが、これまで練り上げてきたビジネスプランを発表しました。審査員は、南宗成氏（日本政策金融公庫北海道創業支援センター所長）、柿本雅史氏（北海道中小企業総合支援センター企業振興部長）、太田貴之氏（札幌市経済観光局経済戦略推進部イノベーション推進課長）、川嶋留美氏（LIFEMAP クリエイト代表）の4名。「発想」「新規性」「地域貢献度」「実現性」「市場性」「熱意」の6つの観点で評価しました。

最優秀賞に選ばれたのは札幌新陽高等学校・チーム名「合格、ナタデココ」の「社会貢献活動バスツアー企画の実施」です。北海道の第一次産業の人手不足を解消するために「社会貢献バスツアー」など複数の事業を収入源として組み合わせるといったビジネスモデルが高く評価されました。受賞した生徒は「審査員からいただいたアドバイスを整理し、このプランをより良いものにしたい。他校の発表からも刺激を受け、とてもいい経験になりました」とコメントしています。優秀賞は、クラーク記念国際高等学校札幌白石キャンパス・チーム名「シェイク」の「なれっじチャット」、札幌開成中等教育学校・チーム名「北海道米かりい」の「地域振興の観点からの米粉パンのPRと販売について」がそれぞれ受賞しました。

本学ではコンテスト終了後も高校への出張サポートなど、高校生のビジネスアイデアの実現に向けた支援を行っています。このコンテストが高校生のチャレンジ精神や創造力、課題発見力の向上、職業観の醸成に役立つことを期待します。



▲最優秀賞を受賞した札幌新陽高等学校の「社会貢献活動バスツアー企画の実施」



▲河西邦人学長による講評

## 高校の探究学習を支援 ～高校生と考えるバリアフリーな地域社会

社会連携センターでは高校生が自身の研究課題を探究していく中で疑問にぶつかったときのサポートを行っています。

市立札幌平岸高等学校（札幌市豊平区）では、生徒自身が課題を設定し、考え、試行錯誤しながら答えを導き出していく「平岸マイプロジェクト」を実施しています（19チームが参加）。そのうちの一つ「もちチーム」では、地域の人たち、病気や障害がある人たち、地域の学校が協働して過ごしやすい環境を作り上げていくプラットフォームの構築に取り組んでいます。

2024年8月31日、「もちチーム」が企画した「バリアフリーマップ作成活動」を新札幌キャンパスで行いました。目標は、障害の有無に関わらずみんなが過ごしやすい環境を作り上げ人の輪と和を広げていくこと。当日は、平岸高校生14名に加え、本学の教員・学生、医療従事者、車椅子ユーザーの総勢30名が参加しました。札幌副都心開発公社所管の商業施設（サンピアザ、カテプリ、デュオ）を見てまわり、「案内図の高さ」「スロープの幅」「トイレやエレベーターの位置や広さ」など、良い点や課題点などをバリアフリーマップにまとめ、各グループが発表し評価しました。「もちチーム」のプロジェクトリーダーは「長い間考えていたプランの一環であるバリアフリーマップの作成が実現できて嬉しい。様々な人々がつながることのできる社会をこれからも目指していきたい」と話してくださいました。



## 誰もが安心して暮らせるまちを目指して ～「えべつ健康フェスタ」に出展しました

「健康都市宣言」を掲げる江別市は、市民の健康寿命を延ばし、誰もが安心して暮らせるまちを目指しています。その取組の一環として2024年9月28日、「えべつ健康フェスタ」が江別市野幌公民館で開催されました。イベントには江別市内4大学や企業、健康・医療に関わる諸団体が健康に関するさまざまなブースを出展し、多くの参加者でにぎわいました。

本学は「傾聴ボランティアサークル」（顧問：心理学部臨床心理学科大宮秀淑教授、中村裕子講師）が「脳トレ」を出展しました。両手を使って鉛筆で「無限大記号」を書いたり、文字を繋げて言葉を組み立てたり、こうしたトレーニングを継続して行うことで脳の働きが刺激され、記憶力アップが期待できます。参加した皆さんは「難しい」と悪戦苦闘の様子でしたが、学生たちの丁寧なサポートに終始リラックスして取り組むことができたようです。



## クラブ & サークル

### 弓道部

弓道部は、約40名の部員で全国制覇を目指して日々全力で練習に取り組んでいます。活動時間が長く、部則や制約もある中で厳しい練習に励み、仲間とともに努力を重ねることで着実に力をつけています。弓道部女子は2024年10月に行われた第70回北海道学生弓道争覇戦にて優勝し、11月に伊勢神宮で行われた全日本学生弓道王座決定戦第48回女子の部に出場しました。惜しくも敗れましたが、多くの方々からの応援や指導に支えられながら、一歩ずつ目標に向かって挑戦を続けています。つらいこともありますが、全員で勝利を目指し、頑張る姿勢を大切にしています。



### 陸上競技部

2024年8月に行われた北海道大学駅伝で全員が区間賞を獲得し7連覇、また目標のひとつであった北海道学連選抜として参加した出雲大学駅伝での北海道地区の複数枠獲得、北海道インカレでのトラック優勝など、非常に成長した1年でした。来年度以降もこの結果に甘んじることなく日々の練習に励み、全日本大学駅伝での北海道地区の出場枠の増枠、櫻を最後までつなげるという目標を目指し活動していきます。



## 学科トピックス

### 臨床心理学科

#### 北海道心理学会第71回大会で学生が研究発表

2024年10月20日に開催された北海道心理学会第71回大会にて、心理学部臨床心理学科の友野貴之ゼミの4年生5名、久藏孝幸ゼミの4年生1名がポスター発表（学部生セッション）を行いました。さまざまな大学の学生・教員とディスカッションや意見交換ができた貴重な機会となりました。来年度以降も学術大会に積極的に参加して研究発表を行いたいと思います。



### 英語英米文学科

#### マウントフードコミュニティカレッジ（MHCC）との交流—異文化を体験—

2024年6月下旬に、米国オレゴン州グレシャム市のマウントフードコミュニティカレッジから学生11名と教員が来学しました。江別市内にホームステイをしながら、英語英米文学科の学生を中心に共に学ぶ2週間を過ごしました。コロナ禍の期間のZoom交流を経て、ようやく実際に対面することができました。来年度は本学の学生たちがMHCCへ出かけていきます。さらに実りの多い交流を継続して育んでいきます。



### 人間科学科

#### アダプテッド・スポーツを通して交流会を開催しました

人間科学科では3年生から始まるゼミ活動において、文献の検討や発表のほか、フィールドワークや研修旅行などを積極的に取り入れています。ソーシャルワーク専攻のゼミでは、アダプテッド・スポーツを介した交流活動として、他大学の学生と「車いすバスケット」を実施し、学びの多いひと時を過ごしました。



※アダプテッド・スポーツとはスポーツの道具やルールを工夫することによって、子どももお年寄りも障害者も「誰でも楽しめるようにするスポーツ」のことです。

### こども発達学科

#### 教員採用試験合格者大幅増。面接重視の試験傾向を追い風に

こども発達学科では2025年度採用の教員採用試験において、北海道・札幌市の小学校に20名、特別支援学校小学部に3名が現役合格しました。小学校は前年度から6名増であり、2024年度3月卒業予定の49名に占める現役合格率は46.9%に達し、学科カリキュラムの中軸たる「小学校教員養成」で他大学に引けを取らない成果を上げています。写真は2024年11月20日に実施された教育実習事後報告会の様子です。





## 教員採用試験、既卒者も含めて41名が登録

2025年度採用の教員採用試験には、北海道、札幌市のほか道外を含め、現役4年生から小学校20名、中学校社会2名、中学校英語2名、高等学校英語4名、特別支援学校4名の計32名、既卒者9名（小学校、高等学校地理歴史、高等学校英語、特別支援学校）の合計41名（2025年1月17日現在）が登録されました。2024年11月14日には、合格者の努力を労い、その経験を教職課程全体のものにするために、「教職をめざす学生交流会」を開催し、情報交換を行うとともに、後輩たちも教員への決意を新たにしました。



## 保護者懇談会について

今年度の保護者懇談会は、8月末から9月にかけて地方会場（帯広、北見、釧路）、10月には本学会場で約320名の保護者の皆様をお迎えし、開催されました。

全体説明会では教育活動や就職活動、学生支援の紹介のほか、保護者同士の意見交換や質疑応答を行い、個別面談では教員より学生の修学状況（単位修得・成績・授業出欠状況など）の説明をさせていただきました。



### 法律学科

## 「地域インターンシップB」現地実習を実施

法学部法律学科では、実際の地方自治体などの現場に赴く「地域インターンシップ」を通じて、地域経済の在り方や行政活動の重要性等について学修しています。今年度は、人口減少により消滅可能性自治体が数多くある北海道にあって、人口増加のトレンドを歩み全国から注目を集めている東川町に協力いただき2024年6月7日に現地実習を行いました。実際の生活空間に触れ、町のさまざまな工夫を体験することで、より鮮明にまちづくりや地方創生について考えることができました。



### 経済学科

## 経済経営学部学生が高校生とワークショップを開催

経済経営学部の魅力を伝える経済経営学部の学生プロジェクト「many answers project」のメンバーが市立札幌平岸高等学校で「ココロドルビジネスプランを考えよう！」をテーマにワークショップを開催しました。ファシリテーターとして各グループの議論に加わり、ユニークなビジネスプランの創出に導きました。



## ふるさと江別塾

ふるさと江別塾は、江別市と本学を含む江別市内4大学が共同で運営するリレー講座で、今年で25回目となります。本学では、2024年10月19日に「墮胎と優生思想」(岡田久美子法学部教授)と「鉄砲と『海』の日本史」(諸洪一人文学部教授)の2講座が開講されました。悪天候にもかかわらず約40名の江別市民が参加しました。講座終了後は活発な質疑応答があり、参加した方々の意識の高さがかがえました。



### 経営学科

## 地域の皆様に一日学生体験をしていただきました

2024年5月11日、地域住民の方に札幌学院大学を知ってもらうことを目的として経営学科の吉川哲生ゼミは、新さっぽろ副都心商店会主催のSPRING FAIR(3月)とのコラボ抽選企画において、G賞「札幌学院大学新札幌キャンパス一日学生体験」(20組)を設けたところ、定員を大きく上回る200組以上の応募がありました。当日は学生と教員によるお金についての講義、キャンパス探検、学食体験などにより参加の皆様へ学生体験をしていただき好評を博しました。



## 人文学部人間科学科大澤真平准教授が 日本社会福祉学会 学会賞（学術賞）を受賞

人文学部人間科学科大澤真平准教授の著書『子どもの「貧困の経験」—構造の中でのエージェンシーとライフチャンスの不平等』（2023年5月、法律文化社）が、日本社会福祉学会 学会賞（学術賞）を受賞し、2024年10月26日「日本社会福祉学会第73回秋季大会」にて授賞式が行われました。本研究において、大澤准教授は貧困が子どもにとって持つ意味を、子ども自身による子ども期の振り返りと、それが現在の生活に与える影響から検討し、貧困の再生産過程を詳細に明らかにした点が評価を受け、「顕著な研究業績をあげた者の顕彰」として受賞にいたしました。



## 経済経営学部経済学科田代歩准教授が 第33回租税資料館賞を受賞

経済経営学部経済学科の田代歩准教授の著書『消費税改革の評価—効率性と公平性の経済分析』（2023年11月、関西学院大学出版会）が、第33回租税資料館賞を受賞し、2024年11月27日に授賞式が開催されました。これは公益財団法人租税資料館が租税理論、租税制度、租税法、会計理論及び税務の執行に関する研究を助成するため、それらをテーマとした研究に関する優れた著書及び論文に対して、毎年「租税資料館賞」として表彰を行い、研究助成金（賞金）を贈呈しているものです。本書の刊行は独立行政法人日本学術振興会『令和5（2023）年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）』の「研究成果公開促進費（学術図書）」JP23HP5117による交付を受けたものです。

田代准教授は受賞について「この度は第33回租税資料館賞を受賞することができ、大変光栄に思います。本書は経済学の分析手法を用いて、消費税の税制改革が社会に与える影響を研究したものです。本書の刊行において、さまざまな苦勞もありましたが、これまでの学術的な研究成果について本学の教職員の方々にもいつも研究環境を支えていただき受賞することができました。消費税は日本の税制を支えるうえで必要不可欠な租税であり、今後ますますその重要性について議論されていきます。このような社会において、学術的な面に加えて政策的にも還元できる研究を続けていきたい」とコメントしています。



## 人文学部人間科学科井上明浩教授が 令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰を受賞

人文学部人間科学科の井上明浩教授が石川県在住時に創設した陸上競技クラブ「春風クラブ」が、令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞され、2024年12月10日に表彰式が開催されました。この表彰は、障害者の生涯を通じた多様な学習を支援・実践する活動及びその活動を行う個人または団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学省が大臣表彰を行っているものです。

井上教授は受賞について「養護学校に初任教諭として着任した私は、部活動がほとんどないことに強い疑問を感じ、先駆的に高体連に加盟し、生徒たちは一般高校生とともに県高校総体など多くの試合に出場しました。ところが卒業後、そのような運動を継続したくても彼らを受け入れてくれるクラブや教室はありませんでした。であれば創るしかないということで、『春風クラブ』を創設しました。この活動は、障害者の生涯スポーツの場であり、昭和の時代からインクルーシブスポーツを支援・推進してきたことを誇りに思います。受賞を励みに私自身、障害のある人とともに皆で生涯現役アスリートを目指し、この活動を続けていきたい」とコメントしています。



## 教員著書紹介

### 『どう生きるか 18歳からの倫理』

川原茂雄（人文学部人間科学科教授）著

出版社：海象社  
出版年：2024年8月  
ISBN：978-4-907717-47-6  
定価：1,650円（税込）  
頁：141ページ

「18歳からの倫理」とは自分の人生をどう生きるのかを考えること、自分の生き方を自分で決めていくことです。この本は、人間の生き方について考えた過去の哲学者たちの言葉や考え方を通して、自分の人生を「どう生きるか」を考える力をつけるトレーニングをするために書いたものです。大学生の皆さんにはぜひとも読んでいただきたいです。



### 『異界の歩き方： ガタリ・中井久夫・当事者研究 （シリーズケアをひらく）』

村澤和多里（心理学部臨床心理学教授）、  
村澤真保呂 著

出版社：医学書院  
出版年：2024年9月  
ISBN：978-4-260-05734-9  
定価：2,200円（税込）  
頁：267ページ

私はこの本を、北海道の浦河へての家からはじまった「当事者研究」の話から出発して、精神医療のありかたを根本的に捉えなおす試みとして書きました。精神疾患を排除したり閉じ込めようとするのではなく一緒に旅する感覚を持つことが重要だという意味で、心のケアを「異界」への旅にたとえました。人類学や哲学、エコロジーの視点も取り入れて論じていますので、ひろく人文科学に関心のある方に読んでいただきたいです（紀伊國屋じんぶん大賞2025第12位）。





## 国際交流について

2024年12月14日、外国人留学生交流企画の一環として、登別地獄谷と登別マリパークニクスを訪れる観光交流会を開催し、本学の外国人留学生と海外協定校からの交換留学生合わせて18名が参加しました。

この交流会は留学生に北海道の魅力を体験してもらおうと同時に、学年やキャンパス、学科を越えた留学生同士の交流を深めることを目的としています。

登別地獄谷では、迫力ある火山地形や温泉の噴出を間近で観察し、硫黄の臭いが漂う中、留学生たちは噴き出す白煙に驚き、北海道ならではの大自然の力強さを感じていました。その後訪れた登別マリパークニクスでは、イルカショーやペンギン散歩を楽しみながら、海洋生物への関心を深め、終始笑顔が絶えない様子でした。

多国籍の学生が集う本学には、学内でも異なる文化や価値観に触れる機会が数多くあります。コミュニケーションにより多様性の尊重や共感性を養い、自身の考え方や視野を広げられるよう、本学は国際交流活動を継続していきます。



## 卒業生この人

株式会社かたわら 代表取締役  
佐藤 彰悟さん



社員を経て起業し企業や自治体の組織づくりをサポートする株式会社かたわら代表取締役の佐藤彰悟さん（2000年人文学部人間科学科卒業）に現在の仕事に就ききっかけや仕事に関するエピソードなどをお聞きました。

**Q. 佐藤さんが経営する株式会社かたわらはどのような会社なのですか？**

企業や自治体の組織開発・組織づくりのお手伝いをする会社です。コンサルとは違い、人事顧問という形で組織の中に入って一緒に作り上げていくのが仕事です。人事といっても、採用だけでなく、企業理念を作ったり、就業規則を考えたり、労務に関する業務など、その組織の課題に合わせて請け負っています。珍しい業態なのですが、クチコミでクライアントが増え、北海道だけでなく全国の企業や地方自治体、スタートアップをクライアントに持っています。

**Q. どのようにお仕事を進めているのですか？**

まずはその会社や自治体の悩みを洗いざらい聞き出します。サーベイといって、アンケートを取ったり、インタビューをしたり、現状を全部最初に洗い出します。そこから課題を見つけて、根本的な解決策を提案し一緒に取り組みます。離職率が高い場合は福利厚生を充実させるとか、人材教育がうまくいっていないなら研修を企画するといった具合です。

**Q. この事業を立ち上げたきっかけを教えてください。**

大学を卒業後、すぐにアミューズメント会社に就職しました。そこで担当したのが広告宣伝とマーケティング。途中から採用も手掛けるようになりました。その後、転職してIT企業やプライダル会社でもマーケティングと人事を担当。プライダルの会社が副業OKだったので、人事のキャリアを生かして、大学生を対象とした就活支援コミュニティを始めました。1円もお金はいただきず、人事の手の内を明かして、学生を内定に持って行くお手伝いです。その活動が日本経済新聞で紹介され、いろいろなご縁が繋がり、副業がどんどん広がっていったので、結果的に起業することになりました。

**Q. 仕事をする上で、大切にしていることは？**

規模の大小にかかわらず、その地域になくてはならない存在であること、地域に貢献し社会的意義がきちんとある企業しか手伝いませぬ。利益ばかり追求するような企業とは一緒に仕事ができないんです。ちょっとわがまま聞いてもらっていますが、嘘をつきたくないの。採用が一番良くないのが、お互いの嘘なんです。だから、僕もそこを大切にしています。

**Q. これまでに関わった案件で、印象深かったのは？**

どこも印象深いのですが、民間企業は課題がそれぞれです。業種や地域、規模、扱う物やサービスによっても課題が異なります。自治体の悩みは大小にかかわらず、ほぼ共通していて、業務過多や管理職が機能していないということ。ただ、悩みはさまざまでも、かたわら社が入ることによって大きく変わるの、中にいる人たちのやる気やモチベーション、成長スピードなんですね。やる気とモチベーションが上がって、成長スピードが上がると離職率が下がる。すると採用にかかるコストが削減できる。浮いたコストは投資や従業員への賞与に還元できるなど、好循環が生まれます。さらに今まで採れなかった層が採用できるようにもなります。そうした場面にたくさん立ち会えたことは、僕にとって印象深いことですね。

**Q. 企業はどんな人材を求めているのでしょうか？**

よく聞かれる質問です。どの企業にも採用したい人物像はあります。僕も学生時代は気がつかなかったので、就職試験に落ちたら自分は優秀じゃないんだと落ち込みました。でも、企業は学生さんが優秀か優秀じゃないかを見ているのではありません。その企業にマッチするかしないかを見ているんです。ですから、企業研究の前に自己分析。自分で判断するだけでなく、周りの人にも聞いてみる他己分析も大切です。新卒に限って言えば、企業が共通して求めているのは、素直さと愛嬌。間違いありません。

**Q. 学生に向けてメッセージをお願いします。**

僕は学生時代、そんなにいい学生ではありませんでした。でも、自分でやりたいと思ったことは全力で楽しむ学生でした。楽しいこと、人と繋がること、人が幸せになるのを見届けることが好きでした。それと授業では、地域社会学に興味がありました。それらを含めて経験したことすべてが今の仕事に繋がっています。学生の皆さんも、ぜひ自分の個性と自分の“やりたい”に沿った仕事選びをしてください。

〈聞き手 学生広報スタッフ LINK 人文学部英語英米文学科3年吉田優月、経済経営学部経営学科3年三木汐音〉  
※このインタビュー記事は学生広報スタッフ LINK 制作によるフリーペーパー『学生 PRESS [LINK]』Volume2《2025年1月号》より転載しています。



# Information

## 学位記授与式の挙行について

2024 (令和 6) 年度 学位記授与式を次のとおり挙行します。

(日時) 2025 (令和 7) 年 3 月 18 日 (火)

(式場) 札幌学院大学 江別キャンパス G 館 SGU ホール

### 10 時 15 分 開式

大学院 法学研究科 法学部 法律学科  
大学院 臨床心理学研究科 心理学部 臨床心理学科

### 11 時 20 分 開式

経済経営学部 経営学科 人文学部 英語英米文学科  
経営学部 経営学科 人文学部 こども発達学科  
経営学部 会計ファイナンス学科

### 13 時 30 分 開式

大学院 地域社会マネジメント研究科 経済経営学部 経済学科  
経済学部 経済学科  
人文学部 人間科学科

## 大学院 地域社会マネジメント研究科 地域社会マネジメント専攻 (修士課程) の令和 7 (2025) 年度以降の学生募集停止について

札幌学院大学大学院 地域社会マネジメント研究科 地域社会マネジメント専攻 (修士課程) は、令和 7 (2025) 年度以降の学生募集を停止することといたしました。地域社会マネジメント研究科は「持続可能な地域社会づくり」を教育・研究するため、経済学、社会学、経営学、会計学、都市計画など多様な分野の教員を揃え、2003 年より教育研究活動を展開してまいりました。以来、本研究科の教育課程を修了した 150 名もの修了生は社会の様々な分野で活躍し、教育研究機関として一定の役割を果たしたことからこのたびの判断にいたしました。

学生募集を停止した後も、2024 年度の入学者を含む全ての地域社会マネジメント研究科在学生在が修了するまでは、現在の教育・指導体制を維持し、教育機関としての責任を引き続き果たしてまいります。

なお、当研究科が担ってきた社会人を中心とした教育実践は札幌学院大学コミュニティ・カレッジが継承し、コミュニティ・カレッジにおいて社会人向けのまちづくりやビジネス関連の教育を展開いたします。

これまで、地域社会マネジメント研究科の設置・運営等にご支援・ご協力を賜りました皆様には、深く御礼を申し上げますと共に、今回の決定につきましてご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

札幌学院大学  
学長 河西 邦人

## 2025 年度 大学行事等予定

	[前 期]	[後 期]
3月26日(水)	在学生健康診断 (新札幌)	9月20日(土) リフレクション入試面接 (本学)
27日(木)	在学生健康診断 (江別・新札幌)	21日(日) リフレクション入試面接 (本学)
28日(金)	在学生健康診断 (江別)	22日(月) 後期授業開始
31日(月)	在学生ガイダンス (江別・新札幌)	25日(木) 前期末学位記授与式
4月1日(火)	入学式 (札幌コンベンションセンター)	27日(土) 大学進学セミナー (旭川) 大学院第1期入試
2日(水)	新入生ガイダンス	28日(日) 大学進学セミナー (北見) 大学院第1期入試
3日(木)	新入生ガイダンス	10月4日(土) 大学進学セミナー (函館・帯広)
4日(金)	新入生ガイダンス、 新入生健康診断 (新札幌・江別)	5日(日) 大学進学セミナー (青森・釧路)
7日(月)	新入生ガイダンス	11日(土) 保護者懇談会 (本学)
8日(火)	前期授業開始	18日(土) 編入学試験 (A日程)
6月8日(日)	オープンキャンパス	25日(土) リフレクション入試 (面接重視型)
15日(日)	学園創立記念日	26日(日) リフレクション入試 (面接重視型)
28日(土)	大学祭	11月22日(土) 学校推薦型入試
7月13日(日)	オープンキャンパス	23日(日) 学校推薦型入試
30日(水)	前期定期試験	12月6日(土) オープンキャンパス
31日(木)	前期定期試験	13日(土) リフレクション入試 (自己PR)
8月1日(金)	前期定期試験	1月17日(土) 大学入学共通テスト
4日(月)	前期定期試験	18日(日) 大学入学共通テスト
5日(火)	前期定期試験	26日(月) 後期定期試験
8日(金)	大学院臨床心理学研究科特別選抜入試	27日(火) 後期定期試験
18日(月)	夏期集中講義期間 (前期科目)	28日(水) 後期定期試験
~22日(金)	保護者懇談会 (旭川)	29日(木) 後期定期試験
24日(日)	秋期集中講義期間 (後期科目)	30日(金) 後期定期試験
9月1日(月)	オープンキャンパス	2月3日(火) 一般入試A
~5日(金)	保護者懇談会 (函館)	4日(水) 一般入試A
6日(土)		7日(土) 大学院第II期入試
13日(土)		8日(日) 大学院第II期入試
		17日(火) 転学部・学科試験
		20日(金) 卒業発表
		28日(土) 編入学試験 (B日程)
		3月8日(日) 一般入試B
		18日(水) 学位記授与式
		20日(金) オープンキャンパス
		21日(土) リフレクション入試B

※なお、変更が生じた場合は、大学ホームページにてご案内させていただきます。

## 教育振興寄付のご協力を深く感謝・芳名

教育振興寄付にご協力をいただき心より御礼申し上げます。

ご寄付への感謝を込め、公表に同意をいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

■ご寄付いただいた方で、万一お名前がもれている等のお気づきの点がありましたら、誠に恐縮ではございますが、財務課寄付金担当までご連絡をお願いします。(011-386-8111)

### 寄付者・ご芳名 (掲載承諾者・敬称略・五十音順) 2024.6.1 ~ 12.31

青木 正利	川元 開斗	白石 英才	三津谷辰彦
浅野 勝	熊原 堅一	菅原 光則	宮北 晋安
内池 秀樹	桑原 英樹	玉木 悟	桃山 光雄
大隅 正弘	今野 寿幸	トラットリア・ピアッティ	山田 陽介
小笠原弘幸	坂下 祐子	中西 宏明	山本 将誉
柏 秀人	坂尻 康平	中村 重和	横山 末雄
金谷 輝之	佐々木賢一	福元 美佳	吉川 昭
河西 邦人	佐藤 建次	前田 未鹿	渡辺美智子
河野 専二	佐藤 秀雄	三浦 一美	ほか匿名 26 名

※受配者指定寄付をのぞく

## SNS 情報

Instagram



Pick Up!

Instagram  
の投稿の  
一部を  
ご紹介!



Facebook



X (旧Twitter)



YouTube



この広報紙は、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO2 削減活動ならびに東日本大震災被災地復興を応援しています。